

項目	観点	教科書名	
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	(1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるために、どのように配慮されているか【知識及び技能】	新しい家庭5・6(2・東書) ・「めあて」に応じた「ふり返ろう」があり、知識・技能が定着しやすいようになっている。(P7)(P8, 12) ・イラストや写真説明資料が大きく数も多い。支援が必要な児童に知識や技能をもたせる上で配慮がある。(P82, 83) ・「いつも確かめよう」のコーナーで学習の手順を示し、知識や技能を身に付けられるようになっている。(P130～141)	小学校 わたしたちの家庭(9・開隆堂) ・QRコードなどでコンテンツを利用することで、視覚的な資料も利用でき、知識や技能を身に付けられるようになっている。(P7, 11, 13, 15・・・) ・簡単なものから繰り返し積み重ねていくことで基礎的な理解を図るとともに、技能を身に付けられる内容になっている。「ゆでる料理」では、ガスこんろで湯をわかす。(P12, 13)→青菜はふつとした湯で、いもは水からゆでる。(P14, 15)→ゆで野菜のサラダをつくる。(P18, 19)→自身の生活に生かす調理へ(P19)
	(2) 日常生活の中から問題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養うために、どのように配慮されているか【思考力・判断力・表現力等】	・第3小題材「ステップ3生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」、「活動 深めよう」では、学習内容を生活に結びつけ、学習の中で他者との交流を図り、日常生活の問題を見いだし、解決できるようにしている。(P13, 22, 30, 38, 48・・・) ・生活の課題と実践を「生活を変えるチャンス！」として設定し、学んだ知識・技能や育成された思考力・判断力・表現力等を活用し、生活の課題を小題材で学んだ3ステップを生かし、解決していく内容になっている。(P31, 61, 95・・・)	・「話し合おう」「調べよう」「考えよう」「やってみよう」が充実している。 ・各題材のとびらがイラストや写真で始まり、児童が興味・関心をもち、さまざまなことに気付いたり、課題を見つけたりできるようになっている。また、グループや学級で対話することによって自分の気付きをもとに新たな視点を得たり、深い学びへつながったりできるようになっている。(P124・125) ・学習で習得した知識及び技能などを実生活で活用するために「生活の課題と実践」として1つまたは2つの課題を設定し、実践的な活動を家庭や地域などで行えるページを設けている。(P76～79「レッツトライ生活の課題と実践」)
	(3) 家庭生活を大切にすることを育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うために、どのように配慮されているか【学びに向かう力・人間性等】	・「日本の伝統」では、自国の良さに気付けるよう工夫されている。 ・「プロに聞く！」では、学習と関連することに関する専門家の話を掲載し、広い視野で活動を捉えられるように工夫されている。 ・家族や家庭生活は、児童の生活の基盤となるという考えから、すべての大題材で家族や家庭生活と結びつくように配慮している。学習した知識や技能をもとに、生活の中で生かす視点を入れたり、家族のための製作を示唆する内容を示したりしている。 ・15大題材「あなたは、家庭や地域の宝物」では、家庭や地域での自分の役割を自覚し、自分の仕事ができるよう配慮している。(P122, 127)	・「A家族・家庭生活」の課題と実践については児童が家庭や地域で実践できるよう実践のステップが掲載されているので計画を立てやすい。また、課題例が複数紹介されているため児童が実践のイメージをもちやすく工夫されている。(P76～79「レッツトライ生活の課題と実践」) ・幼児または低学年や高齢者など異なる世代の人たちと関わり、地域の中で共に生活する視点で題材が構成されている。(P72～74「いっしょにほっとタイム」、P120～123「共に生きる地域での生活」)
2 内容の程度及び取り扱いについて	(1) 生活の営みに係る見方・考え方をはたらかせるために、どのような工夫が見られるか。	・各題材の初めの家庭科の窓には、生活の営みに係る見方・考え方の4視点のうち、重点となる観点を示しており、学習が進めやすくなっている。(P6, 14, 32)	・生活の営みに係る見方・考え方の4視点を4つ葉のクローバーで表現しているところが親しみやすい。それぞれの視点をトランプの4つのマークで分類している。 ・クローバーマークで生活の見方考え方を4つの視点で見えていくことを全ての題材で統一しており、取り組み方の道しるべになっている。(P1, 2, 15, 17, …126)
	(2) 主体的・対話的な深い学びの実現のために、どのような工夫が見られるか。	・題材の中の学習が、3ステップで示され学習の進め方が分かりやすい。ステップ1(P7)ステップ2(P8)ステップ3(P13) ・各題材とも「考えよう」(P33)「深めよう」(P38)「交流しよう」(P71)等のコーナーにおいて、学び合いのヒントとなる考えがふき出し等で示されている。	・「1 見つける・気づく 2 わかる・できる 3 生かす・深める」の3つのステップで題材を構成している。例「1 なぜぬうのだろう 2 どのような用具や方法でぬうのだろう 3 手ぬいを生活に生かそう」(P20, 21, 25) ・特に、導入の「1見つける 気づく」では、写真やイラスト、ふき出しが児童の気づきを手助けしており、児童のつぶやきも拾いやすくしている。(P20 なぜぬうのだろう)
	(3) 実践的・体験的な活動にはどのような工夫が見られるか。	・「生活を変えるチャンス！」コーナーでは、学んだことや身に付いた力を生かせるよう「実践の進め方」に沿って、実践例を紹介している。普段の生活の中でも、課題をもって実践し評価・改善していく態度を育てることにつながると思われる。(P31) ・実践的・体験的に楽しく学びながら生活の自立を目指すことができる。インターネットを活用して、基礎技能動画を見ることができる。(P17「包丁の使い方(右きき・左きき)」, 18「皮のむき方(右きき・左きき)」・・・)実寸大写真でイメージがつかみやすく、不安を解消し、安全に授業を展開することができる。(P132)どのくらいの大きさに切ればよいのか、一目で分かる実寸大写真を掲載している。(P83)	・各題材の終末に「ふり返ろう」「生活に生かそう」コーナーが設定されており身に付けた力を生活の中で実践しようとする態度を育てやすい。(P27)その後の「チャレンジコーナー」は、アイデアが出にくい児童への配慮にもなっている。(P37) ・考えのもとになる科学的根拠が視覚的に分かりやすく示されており、生活の中で実践していこうとする意欲を高めるための工夫がある。(P16, 51, 65・・・) ・快適な住まい方の学習においては、学校での実践・体験が家庭でも実践しやすくなっている。(P90～93) ・活動の振り返りとしての自己評価の項目「できたかな」が具体的でかつ多く用意されている。(P14, 15)

3 構成・配列・分量	(1) 題材の構成や教材の配列には、どのような特色があるか。	・大題材の配列を組み替えることで、地域や学校の実態に応じた指導ができるようにしている。 ・活動例や実習例を豊富に提示することで、地域や学校の実態に応じて、選択して指導できるように配慮されている。	・5年では「生活を見つめ、できることを増やしてこう」、6年では「工夫して生活に生かそう」のテーマで題材構成・配列がなされている。(P1, 2) ・題材が細かく区切られているので地域や学校の事情等によって順序の組み換えがしやすく工夫されている。
	(2) 題材の教材の分量には、どのような特色があるか。	・学習のページでは主な解説・写真を掲載し、巻末の大きな写真や図でより詳しく説明を補足している。 ・各題材の教材の分量は、適切である。	・基礎的なものからスモールステップで学習が進むよう題材が多く配列されている。 ・各学年の題材内容の分量が適切に配列されている。
4 表記・表現	(1) 用語や記号、レイアウト等について、どのような特色があるか。	・大切なことを示す文字が大きく見やすい。 ・使われているマークは16種類。カラフルで形も内容と関連させるように工夫。スマホのアプリのマークのようで児童も活用するのではないか。 ・A4判を用い、一つの実習を見開きで概観することができるため、分かりやすいレイアウトになっている。 専門的な用語については、脚注などで児童が理解しやすい簡潔な表現で解説を補足している。「言葉」(P11, 35・・・)	・調理や製作の手順の掲載については見開き2ページを大きく使っている。手順を示す番号①, ②・・・が、黒丸の中に数字で、一目で作業の手順が理解しやすく児童が主体的に学べる。 ・他教科・領域等の関連を示す内容を表すアイコンマークは10種類。 ・毎ページ下には「ひとロメモ」が記載されており、集めただけでもかなりの数になる。本文の内容と関連されているため幅広い知識の習得に役立つ。
	(2) 写真や挿絵、図表等について、どのような工夫が見られるか。	・調理実習で使う用具が、写真付きで示され分かりやすい。 ・4人のキャラクターがふき出しで会話を展開していく。気付きや理解の手助けになる。 ・資料のコーナーが充実している(図・表)。 ・本文・イラスト・写真・図表の配分は適切で、関連をもたせて構成している。(P46, 80, 109・・・) ・関連のある題材や資料が他のページにある場合には「リンクマーク」で適宜参照ページを示している。(P18, 25, 37)	・掲載されているQRコードを読み取るとタブレット等で、豊富な動画資料を見ることができる。技能の習得に有効である。 ・課題を解決するための手がかりや本文内容の理解を助ける資料が、効果的な表現や分量、大きさを示されている。実習は写真とイラストで分かりやすく例示されている。調理の写真は実習する児童の目線から見たアングルを掲載しているので、実際の調理がイメージしやすい。(P87)
5 体裁・使用上の便宜	体裁や使用上の便宜等については、どのように配慮されているか	・A4判のためスペースがゆったりと配置してある。片側1ページでも見やすい。 ・教科書目次裏に、5・6年の成長の記録を自己評価するページがあり、2年間を通しての自分の付いた力が一覧化して見ることができる。 ・学年末にまとめのページがある。 ・カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮している。 見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントを採用している。 再生紙・植物油インキを使用している。	・環境を考えた実践例についての記載が豊富かつ具体的であり、自分の家での生活につなげるためのイメージ化がしやすい。 ・現在の自分から中学生に向かうまでの成長を見通せるようになっている。 ・ユニバーサルデザインにも特化しており、文字の大きさ、文字数、色使いなどがちょうどよく、特別支援教育的な視点から見ると単語や節が行をまたがないように改行位置を工夫しており、文章や語彙の意味がひと目で理解できるよう読みやすい構成になっている。(P10) ・活動の際に活用しやすいよう、コンパクトな大きさである。 ・生活の中のプログラミングを考えるページを設けている。(P128, 129) ・情報量を必要最低限に押さえてあり読みやすい。見やすい。 ・環境に配慮した用紙やインキを使用している。